公募制自己推薦入試
過去問題
2025

国際日本学部

国際文化交流学科
日本文化学科
歴史民俗学科

※問題は 2025 年度入試のものです。
※2026 年度入試の公募制自己推薦入試は、一部の学科のみ募集を行います。また、新たな入試として「総合型選抜(総合評価型)」を実施します。

KU 神奈川大学

〈J〉

管理番号：A-9

２０２５年度　神奈川大学　公募制自己推薦入学試験

【小論文】

国際日本学部　国際文化交流学科

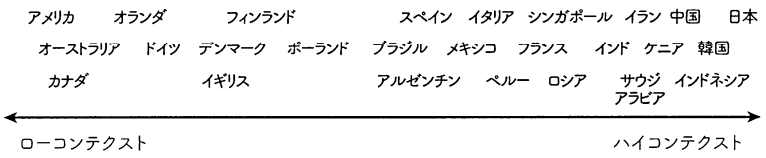
［試験時間 60 分］

次の文章を読んで、次ページの問題について解答してください。

言語は、それを使用する文化におけるコミュニケーションのスタイルを反映している。たとえば、日本語やヒンディー語は、どちらもハイコンテクストな言語であり、いつどのような状況で使われるかによって様々に意味が変わる言葉が比較的多い。こうした理由により、日本語やヒンディー語を使うときは、メッセージを理解するため「空気を読む」ことが現実的に必要なのである。

ラテン語由来のロマンス諸語（フランス語、スペイン語など）は多くのアジア圏の言語よりもローコンテクストだが、英語はそのロマンス諸語に比べてもローコンテクストな言語である。しかし、コミュニケーションの指標におけるローコンテクストとハイコンテクストの分布を見てみると、言語だけが問題ではないことがわかる（図 1-1）。言語はコミュニケーションの指標における各国の位置づけを推し量る一つの要素にすぎない。共に英語圏であるアメリカとイギリスの差は大きく、共にロマンス語圏の国であるブラジルとペルーの差も大きい。

図 1-1 「コミュニケーション」の各国分布



ローコンテクスト　良いコミュニケーションとは厳密で、シンプルで、明確なものである。メッセージは額面通りに伝え、額面通りに受け取る。コミュニケーションを明確にするためならば繰り返しも歓迎される。

ハイコンテクスト　良いコミュニケーションとは繊細で、含みがあり、多層的なものである。メッセージは行間で伝え、行間で受け取る。ほのめかして伝えられることが多く、はっきりと口にすることは少ない。

（エリン・メイヤー（2015）異文化理解力．P.59）

言語以上に、その国の歴史がコミュニケーションの指標における位置づけに大きな影響を与えている。ためしに、指標の両端の国であるアメリカと日本の歴史を考えてみてほしい。ハイコンテクストな文化圏は、長い間共有してきた歴史を持っていることが多い。それらの文化圏は、主に関係性を重視した社会であり、人とのつながりというネットワークが代々受け継がれていくなかで、コミュニティのメンバー間にコンテクストがどんどん共有されていく。日本は単一民族の島国社会で、数千年におよぶ歴史を共有しており、その歴史の大部分はほかの国から閉ざされた状態だった。数千年をかけて、人々は互いのメッセージを汲み取る能力に長けるようになったのである --- つまり空気を読むようになったのだ。

対照的に、共有する歴史が数百年しかないアメリカは、世界各国からの移民で成り立っており、それぞれが別々の歴史、別々の言葉、別々のバックグラウンドを持っている。共通のコンテクストをほとんど持っていないため、アメリカの人々は、メッセージを伝えたいと思ったら曖昧さや誤解が生じる余地をなくして、できる限りはっきりと明確に伝えなければならないとすぐに学んだのである。

エリン・メイヤー（著）田岡恵（監訳）樋口武志（訳）（2015）異文化理解力．英治出版．Pp.51-52／pp.56-60／p.76

（出題に際し編集；読点補足・中略など）

[原典]
The Culture Map by Erin Meyer Copyright (c) 2014 by Erin Meyer. Japanese digital reprint published by arrangement with PublicAffairs, an imprint of Perseus Books, LLC, a subsidiary of Hachette Book Group, New York, New York, USA through Tuttle-Mori Agency Inc., Tokyo

国際日本学部　国際文化交流学科

２０２５年度　神奈川大学　公募制自己推薦入学試験

【小論文】

国際日本学部　国際文化交流学科

［試験時間 60 分］

1．問題文では、コミュニケーションのスタイルが「ハイコンテクスト」か「ローコンテクスト」かを決定する要因は何だとされていますか。
簡潔に2つ挙げてください。

2．次の指示は、あるコミュニティにおけるビジネスでの指示です。この指示は、ハイコンテクスト志向ですか、それともローコンテクスト志向ですか。どちらか1つで答えてください。
「できる限り明確で、具体的でいてください。意見は明確に主張してください。思っていることは全部表に出してください。言われたことが 100%理解できなかったときは、意味を汲み取ろうとするのではなく、理解できなかったとはっきり伝えて、不明な点を明確にしてください」

3．ある日本人の発言です：「ハイコンテクストなコミュニケーションをとることが多い日本では、成長するにしたがって、社会生活において言動をコントロールすることを暗黙のうちに学びます。それが文化にあまりに深く根付いているため、自覚すらないほどです。毎年日本では新語・流行語を決める投票がありますが、ある年には、『KY』という言葉がノミネートされました。Kuuki Yomenai の略語で、つまり、相手の気持ちやその場の雰囲気を読む能力が全く欠けている人のことを指します」
これを聞いて、あるアメリカ人から「では、空気読むとは、もっと詳しくいうとどういうことですか」という質問が出ました。あなたならどう説明しますか。具体的な場面を想定しながら論じてもかまいません。（400～600 字で解答）

4．現在あなたが生活しているコミュニティ（国・地域社会・学校・部活・家庭など）をひとつ（またはいくつか）選んでください。そのコミュニティでのコミュニケーションスタイルは、ローコンテクストですか、それともハイコンテクストですか。実例を挙げながら説明し、そのコミュニケーションスタイルについて、考えるところ／感じるところを述べてください。（400～600 字で解答）

国際日本学部　日本文化学科

管理番号：A-10

２０２５年度　神奈川大学　公募制自己推薦入学試験

【小論文】

国際日本学部　日本文化学科
［試験時間 60 分］

以下の文章は、2017 年 1 月 30 日の産経新聞に掲載された文章である。これを読んで、次の問いに答えなさい。

事始（ことはじ）め、御身拭（おみぬぐ）い、おけら詣（まい）り、除夜の鐘に初詣、七草がゆ、初釜式…といった伝統行事は、いずれも年末年始の京都の風物詩である。同様の風習は各地で行われていただろうが、姿を消したものも多い。このうち、除夜の鐘の意外なニュースがこの暮れに注目を集めた。騒音扱いされて、突かれなくなったというのだ。さらに時間を昼間に変更したところ、参拝者が増えた。現代のライフスタイルに合わせたということだろうが、やはり本末転倒である。

そもそも鐘の音は聞くものだ。除夜の鐘は、人が持つとされる百八の煩悩を救うために鳴らすのである。参拝者に突かせてくれる寺に参るのも信仰の形の一つだろうが、自宅で鐘の音に耳を傾け、静かに一年を振り返るのもいい。むしろ、除夜の鐘を毎年聞いていたであろう不特定多数の人がいたはずだ。毎年ほのかに聞こえてくる鐘の音が聞こえなくなって、がっかりしてはいないか。

幸い、京都で除夜の鐘は風物詩であり観光資源の一つでもある。年末の新聞には毎年「除夜の鐘ガイド」が掲載され、訪れる人で各寺は大にぎわいだ。そこには騒音と思う人もいるまい。信仰が風習となって庶民に根付き、やがて文化になるという過程である。

（中略）

かつては学生は修学旅行で京都に来て、日本の歴史、伝統文化に触れた。ところが最近では行き先が京都ではなくなり、さらには日本ですらなくなっている。地域差もあるが、全国修学旅行研究協会の調べによると、平成２６年度の全国の公私立高校での海外修学旅行の実施率は公立高校では９・４％、私立高校では３５・０％に上った。多少の増減はあるものの、この１０年間は公立でも約１割、私立では約３分の１が海外旅行を選んでいる。

また、社寺を見学するのは特定の宗教を特別扱いすることになるなどという、まったく的外れな指摘もある。世界のどの国を見ても、古い固有の文化と宗教は密接につながっているものだ。日本でも、神道や仏教によって、建築や芸術、音楽などの日本文化がはぐくまれてきたことは明らかである。一例を挙げれば、華道は仏に供える仏花から、茶道は禅と深く結びついて発展してきた。それを知らずして、日本文化の本質を理解することはできない。

とはいえこんな話もある。京都市左京区の下鴨神社では、願い事を書いた絵馬の上に貼って隠す個人情報保護シールが人気だという。これも時代の流れだろう。変わっていくもの、守るべきものを見極めることが肝心だ。清少納言が「枕草子」に「近うて遠きもの」として、こう書いている。

「師走の晦日（つごもり）の日、正月（むつき）のついたちの日のほど」

同じ１分１秒でも、年越しの夜はやはり普段とは違う。<u>この感性にこそ、日本文化の核がある</u>。

「日本文化　守るべきもの見極めたい　変化を超えて伝統に誇りを」
（産経新聞 2017 年 1 月 3 日）より抜粋・一部修正

問１　この記事は、宗教的なものをどういうものとして位置付けていますか。100 字以内で述べなさい。

問２　下線部「この感性にこそ、日本文化の核がある」というのは、どういう意味ですか。100 字以内で述べなさい。

問３　日本独自の風習がすたれ、その担い手が減りつつある現在、どのようにして日本文化を維持・保護してゆけると思いますか。上の文章の内容と関連付けつつ、あなた自身の考えを 600 字以内で述べなさい。

国際日本学部　歴史民俗学科

【事前課題】国際日本学部　歴史民俗学科

課題図書部門

指定した「課題図書」の範囲を読んだ上で感想を 1,200 字程度にまとめたもの

イザベラ・バード著 時岡敬子訳『イザベラ・バードの日本紀行』上
（講談社学術文庫 2008 年）第九信から第一八信まで（p113～p247）

国際日本学部　歴史民俗学科

２０２５年度　神奈川大学　公募制自己推薦入学試験

【小論文】

国際日本学部　歴史民俗学科

［試験時間 60 分］

次の文章をよく読んで以下の設問（問１・問２）に答えなさい（文章には省略したり、表記を改めたりしたところがある）。

日本人は木とともに文化を作りあげてきた。日本列島の山々は木々に覆われ、緑にあふれた風景が広がっているが、これらの森林のめぐみを享受することで、木の文化ははぐくまれてきたといっても過言ではない。世界最古の木造建築である法隆寺金堂をはじめ、前近代の建物のほとんどが木で造られてきたことはその証しのひとつといえる。また、木とともに歩んだ長い歴史のなかで、身近な生活道具から美術工芸品に至るまで、木を扱う深い知識と高い技術を蓄積してきており、世界に誇るべき日本の文化である。

いっぽうで現代の日本、とくに都市部では鉄やコンクリートのビルやマンションが林立し、人びとは屋外を見るにもガラスの窓越し、室内を見わたしてもプラスチック製品に囲まれ、化学繊維の衣服を身にまとっている。日常生活と森や木との距離が離れているため、森林のめぐみを実感しにくいかもしれない。とはいえ、春にサクラ、秋にはモミジと、木々の告げる季節の移ろいは私たちの感性に息づいている。言葉をみても、ちぐはぐな状態を「木に竹を接ぐ」と表現したり、ハレの舞台を「檜舞台」といったりする。このように木々は今なお生活のなかに溶け込んでおり、単なる物質的な存在意義を超越して、日本の文化に深く根付いているのである。

日本では木々に限らず、そこに生きる動植物、落葉、山菜に至るまで、森林のめぐみを享受してきた。さらに保水・防風・気象緩和機能など、森林は人間に適した環境を構築する一翼を担っており、目にみえない恩恵は計り知れない。陰に日向に、森や木は生活に密着した存在であり続けているのである。（中略）

日本建築を例にとると、柱・梁などの構造材は当然として、扉や板壁などの柱間装置、そして檜皮葺や板葺のように屋根の葺材にまで、植物性の材料が使われる。とくに住宅では建具でも紙を張った明障子を用いることが多く、日本の伝統建築は木と紙でできていると揶揄されることさえある。さらに茶室や数寄屋では、木の樹種や木目はもちろん、節の位置にまでこだわって材の選択に心を配っている。船・家具などの大型の木製品、農耕具・桶・箸などの道具にも木材の使用はみられるが、まさに日本の伝統建築は木の文化の象徴的存在といえよう。

海野聡『森と木と建築の日本史』岩波新書、2022 年

問 1. 文章の内容を 400 字程度で要約しなさい。

問 2. 自分に身近なモノや体験を具体例としてあげた上で、「日本人と木の文化との関わり」について自分の考えを 400 字程度で書きなさい。